

教室の実施など、スポーツに対する認識を深めることやきっかけづくり、機会の提供を積極的に行っている。また、平成25年10月には、東京で第68回国民体育大会が開催される。この大会を契機にスポーツの楽しさや関心を一層深めていくキャンペーン等の啓発活動を行い、生涯スポーツ社会の実現を推進していく。

**防災に関する船着場の有効活用について**

**問** 有事の際、物資や帰宅困難者の輸送のため、区内の船着場をどのよう

に活用するのか。また、輸送先となる近隣区との調整も必要ではないか。  
**答** 大地震など有事の際には、帰宅困難者等の輸送手段として、船舶の活用は有効である。地震発災後に船舶を運行するためには、東京都建設局による船着場の損傷の点検や海上保安庁による運行許可など、一定の手続きが必要となる。このため、現在、できるだけ速やかな輸送が可能となるよう、区内にある3カ所の船着場の活用方法等について、都や近隣区などの関係機関と協議を進めている。



日本共産党台東区議団

はし づめ たか し  
**橋 詰 高 志**

**来街者に対する防災・震災対策の自治体の役割について**

**問** ①都営地下鉄浅草駅の災害時の避難対策について、所見を伺う。②災害時の鉄道利用者の安全確保について、鉄道事業者に対して、区が積極的に協議を求めるときと考えるが、どうか。③観光立区を標榜する区として、来街者の災害対策に最優先に取り組むべきと考えるが、どうか。  
**答** ①都営地下鉄では、避難誘導訓練等の防災対策に取り組んでいると認識しているが、今後は地域防災計画の修正作業において、これらの対策がさらに充実されるよう協議していく。②区内鉄道各駅と可能な範囲で様々な協議を行っている。今後も国と都が協同で運営する帰宅困難者対策協議会での協議の進捗状況を見据えながら、より具体的な協議を鉄道事業者と進めていく。③危機管理体制の強化や、具体性のある職員行動マニュアルを整備するなど、来街者の安全確保や避難者

誘導について、関係機関と連携を図りながら対策を講じていく。

**放射能から子どもの健康を守ることにについて**

**問** ①給食食材の放射線量測定について、放射性物質測定器を購入し、測定すべきではないか。②区独自の除染基準を設けるべきと考えるが、どうか。③通学路の放射線量を調査・分析し、線量地図を作って公表すべきと考えるが、どうか。④低線量の放射線であれば子どもの健康に影響はないという認識について伺う。  
**答** ①区立小中学校等の給食について、放射性物質検査を実施したところ、結果は不検出となっており、安全な給食が提供できていると考えている。子どもの安全・安心を確保するとともに、保護者の不安を取り除くため、引き続き検査を実施していく。また、検査機器の導入についても検討していく。②放射性物質汚染特別措置法や国が示す考え方に基づき、本区の放射線量低減措置の実施基準を設けていく。③小中学校等の学校施設については、定期的に測定を行い結果を公表していく。通学路の放射線測定については、必要性も含め検討していく。④区内の放射線測定値のレベルは、専門家の意見をもとに、健康影響を懸念する必要はないと判断している。今後も、引き続き区民の不安解消に努めていく。

その他の質問項目

- 1. 医療問題、認知症高齢者に関する問題について
- 2. 住宅リフォーム助成制度等について



無所属の会・台東

はや かわ た ろう  
**早 川 太 郎**

**高齢者の介護について**

**問** ①在宅介護サービスの充実に積極的に取り組むべきではないか。②ケアマネジャーの資質向上に努めるべきではないか。  
**答** ①地域包括支援センターの相談・調整機能の充実や、新たな介護保険サービスの導入に取り組

むなど、在宅サービスの充実を図る。②資質向上の研修等を実施しており、新たに医療知識習得のための研修を検討する。

**再生エネルギーを生かした災害に強いまちづくりについて**

**問** ①避難施設の電力を確保するため、学校施設に太陽光発電等を設置すべきではないか。②災害時の電力確保及び節電対策として、区有施設に太陽光発電等の設置を推進すべきではないか。  
**答** ①電力の供給停止に備え、各避難所等に小型発電機を1台設置している。今後は、太陽光発電の設置等も検討していく。②施設の新設や改修時に、太陽光発電の設置など、再生可能エネルギー設備の導入を進めている。



台東区議会自由民主党・無所属の会

いし かわ よし ひろ  
**石 川 義 弘**

**船上レストラン設置への区の姿勢と現在の進捗状況について**

**問** 東京都観光汽船は、水上バスを定期運行終了後に、東京スカイツリーのビューポイントである船着場に停泊させ、船上レストランを開業したい意向である。実現すれば、新しい川辺の観光ポイントとなり、震災発災時には、帰宅困難者の避難場所及び輸送にも利用できると考えるが、船上レストランへの認識と進捗状況について伺う。  
**答** 船上レストランは、ライトアップされた東京スカイツリーの絶好のビューポイントの一つとなり、夜間の隅田川の水辺空間の魅力を高め、本区のにぎわいと観光誘客の一翼を担う可能性のあるものと考えている。一方で、船上レストラン設置の実現には、東京都の許可をはじめとした関係法令上の制限など様々な課題があるので、今後も東京都や関係機関の動向等の情報収集に努めていく。

**ドライミストの商店街への導入について**

**問** 人工物・舗装面の増加やエアコン等からの人工排熱量の増加等により、都市部の大気が高温化しており、平成17年度に東京都が策定したヒートアイランド対策ガイドラインの熱環境マップによると、区内のほとんどが課題地域となっている。ドライミストを既に導入している他自治体では、気温低減効果が見られ、来街者からも良好な評価を得ている。本区では隅田川花火大会など夏季に行われるイベントが多く、ドライミスト導入による来街者に対する熱環境の改善は商店街のブランド化にもつながることが期待される。ドライミストの熱環境への効果を調査し、良好な結果が得られれば、商店街への導入を積極的に行うべきと考えるが、どうか。  
**答** 本区においてもヒートアイランド化の進行により、夏季には著しく気温が上昇する傾向が見られ、その抑制は重要な課題である。そのため、これまでも緑のカーテンや屋上緑化の普及など、ヒートアイランド対策に積極的に取り組んできたところである。ドライミストは、加圧した水道水を極めて小さい噴射孔から空气中に散布し、水が蒸発する際に空間を効果的に冷却する効果があるとされる。今後は、ドライミストの散布により得られる具体的な効果や課題を検証していく。また、商店街への導入については、東京都や関係機関と協議を進めていく。

その他の質問項目

- 1. 隅田川沿いの管理用通路の利用に対する区の姿勢について
- 2. 隅田公園リバーサイドギャラリーの再整備について
- 3. 社会福祉事業団について



台東区議会みんなの党・無所属クラブ

とみ なが りゅう じ  
**富 永 龍 司**

**就学前児童の降園後の遊び場確保について**

**問** 公立幼稚園には、併設の公立小学校と連携し、校庭を遊び場として活用している園がある。私立幼稚園も同様に、降園後の園児の遊び場として校庭等を活用すべきと考えるが、どうか。  
**答** 降園後に少しでも広い遊び場を確保する方策として、区立小学校の校庭の活用はひとつの方策であるが、

小学校併設の公立幼稚園においても、校庭を利用できる時間帯は、昼食時の空いた時間に限っている。今後、関係者と協議しながら、具体的な方策等について検討していく。

**私立幼稚園と公立小学校のさらなる幼小連携について**

**問** 園児が小学校入学後の生活に円滑になじめるよう、私立幼稚園と公立小学校のさらなる連携が必要ではないか。  
**答** 円滑な小学校生活への接続を目指し、私立幼稚園においても小学校で給食を体験するなどの交流活動を進めている。幼児との交流は、小学生にとっても大変良い異年齢活動となるので、さらなる連携活動を進めていく。